映画のすべてが詰まった超一級エンターテインメント！
米国で『ラ・ラ・ランド』を超える、大ヒットスタート！

カンヌ国際映画祭では、審査員満場一致の決定で韓国映画として史上初の〈最高賞〉パルムドールに輝いた『パラサイト 半地下の家族』。メガホンを取ったのは、『殺人の追憶』『グエムル-漢江の怪物-』など、世界がその才能を絶賛するポン・ジュノ。全員失業中の貧しい一家と、IT企業を経営する裕福な社長一家という、相反する家族の出会いから想像もつかない展開へと猛烈に加速していく物語は、既に韓国動員1,000万人突破、フランス動員160万人突破、さらには、米国で2019年の外国語映画興行収入第1位になるなど、全世界で動員記録を塗り替える爆発的ヒットを飛ばしている。アカデミー賞®受賞最有力の傑作が、いよいよ日本に上陸する――。

貧乏家族の就職先（パラサイト）は、裕福家族の大豪邸――!?
ド肝を抜く展開に、世界中で“ネタバレ禁止運動”勃発！

全員失業中、“半地下”住宅で暮らす貧しいキム一家。長男ギウは、ひょんなことから“高台の豪邸”で暮らす裕福なパク一家のもとへ家庭教師の面接を受けに行く。高給の就職先を見つけた兄に続き、妹ギジョンも豪邸へ足を踏み入れるが…。2つの家族の出会いが引き起こす100%予測不能な展開に、各国では“ネタバレ禁止運動”も勃発するほどの熱狂ぶりをみせている。観る者のド肝を抜く衝撃の物語を、目撃せよ――！

監督：ポン・ジュノ × 主演：ソン・ガンホ

貧しい一家の父を演じるのは、ポン・ジュノ監督と4度目のタッグとなる国際的名優ソン・ガンホ（『タクシー運転手 ～約束は海を越えて～』）。変幻自在な演技で加速していく物語を牽引する。

パラサイト 半地下の家族

出演：ソン・ガンホ　イ・ソンギュン　チョ・ヨジョン　チェ・ウシク　パク・ソダム　イ・ジョンウン　チャン・ヘジン
監督：ポン・ジュノ　撮影：ホン・ギョンピョ　2019年／韓国／132分／2.35:1／英題：PARASITE／原題：GISAENGCHUNG
提供：バップ、ビターズ・エンド、テレビ東京、巌本金属、クオラス、朝日新聞社、Filmarks／配給：ビターズ・エンド　©2019 CJ ENM CORPORATION, BARUNSON E&A ALL RIGHTS RESERVED

@Parasite_JP　@Parasite.movie.JP
www.parasite-mv.jp

2020年1月10日(金) ロードショー

ムビチケカード 1,400円(税込) 発売中！
お買い求めの方にオリジナル付箋プレゼント！(先着順)　＊一部劇場を除く

FESTIVAL DE CANNES PALME D'OR 2019

第72回 カンヌ国際映画祭 [最高賞] パルムドール受賞

アカデミー賞®最有力！
―collider

全員失業中の一家が目指す、高台の豪邸。最高の就職先（パラサイト）には、誰も知らない秘密があった――。

パラサイト
半地下の家族

『殺人の追憶』『グエムル―漢江の怪物―』
ポン・ジュノ監督最新作　ソン・ガンホ主演

出演：ソン・ガンホ　イ・ソンギュン　チョ・ヨジョン　チェ・ウシク　パク・ソダム　イ・ジョンウン　チャン・ヘジン
監督：ポン・ジュノ　撮影：ホン・ギョンピョ　2019年／韓国／132分／2.35:1／英題：PARASITE　原題：GISAENGCHUNG
提供：バップ、ビターズ・エンド、テレビ東京、巌本金属、クオラス、朝日新聞社、Filmarks／配給：ビターズ・エンド

アカデミー賞®最有力の傑作、遂に日本上陸!

鳥肌熱狂! 100%予測不能な展開に衝撃&絶賛が、止まらない——!!

観終わってすぐに、私のこころが呟いた言葉は
「あぁ、とても同じ職業とは思えない」。
感動を越えて、ひざから落ちた。
これはもう映画の範疇に収まらない。
悔しいかな、ポン・ジュノ監督を越えるのは、
きっと、彼自身でしかないだろう。

——**阪本順治**
(映画監督/『半世界』『北のカナリアたち』)

「傑作」という言葉では足らない、
現代映画の一つの到達点。
映画とはここまで面白くなくてはならないのかと、
一監督として途方に暮れた。

——**濱口竜介**
(映画監督/『寝ても覚めても』)

暗闇を目隠しで疾走するごとく巡る興奮と刺激の奥底に、
社会の不浄さ、人間の滑稽さを教訓などで語らずして
優雅に描き切るその腕力にただひれ伏す。
笑いながら観ていたはずが、
気づけば背筋が凍る衝撃に慄いてしまう。

——**李相日**
(映画監督/『怒り』『悪人』)

ポン・ジュノ監督の持つ天才的なグロテスクさと笑いとに、
最高の洗練が加わった。
これだけ社会の重い病巣を描いているのに、
どうしてこんなにも面白く観られてしまうんでしょうか。
どんなに斜に構えている人でも、
どんなに映画を見慣れていない人でも、
五分で目を離せなくなるように作られています。
世界中に褒められて当然!

——**西川美和**
(映画監督/『永い言い訳』)

貧乏家族が金持ち家族を侵食していく、
分かりやすいコメディだと安心させておいて、
とんでもないところへ観客を導く。ポン・ジュノは映画を信じ、
観客を信じて自ら映画を遊んでしまう。
なんか**映画の全部が詰まってる**感じ。
いつか爪の垢を煎じて飲ませてください。

——**山下敦弘**
(映画監督/『オーバー・フェンス』)

映画人として最も尊敬しているポン・ジュノ監督の
最新作であり、カンヌ映画祭のパルムドール受賞作。
期待値を上げるだけ上げて観たら、
底が抜けて**奈落に突き落とされたような衝撃。**
見上げると、巨軀の天才が満面の笑みでこちらを見ている。
僕たちは、ここから這い上がらないといけない。

——**川村元気**
(映画プロデューサー/小説家)

観る前の人に、この映画の内容を説明するのは野暮だ。
「見ろ!」としか言えないし、
「面白い!」としか言いようがない。
だから、とにかく見て欲しい。

——**是枝裕和**(映画監督/『真実』『万引き家族』)

ものすごいものを観た!
家2軒しか出てこない映画かと思わせて、
最後には予想もつかないようなところまで
連れて行ってくれる。
観た後に誰かと語り合いたくなる映画です。
ネタバレ厳禁につき多くを語れないので、
とにかくまずは観てください!

——**細田守**
(アニメーション映画監督/『未来のミライ』『サマーウォーズ』)

ダメ親父ソン・ガンホ率いるドン底ファミリーのドタバタに
ゲラゲラ笑っているうちに戦慄の展開へ!
『ジョーカー』『万引き家族』『アス』
そして**『パラサイト』が突きつけるのは、**
今を映す鏡だ!

——**町山智浩**(映画評論家)

1つの作品をきっかけに、
映画を好きになる事がある。
『パラサイト』はその最高の入口であり、
出口まで連れ去ってしまうほど、
危ういくらい面白い。
この社会で生き抜く、全ての人に見てほしい。

——**仲野太賀**(俳優)

史上最強傑作!!
遂にポン・ジュノは現代映画の到達点を本作で
サラッと更新してしまったのではなかろうか。
己の現在地は、果たして地上なのか、
地下なのか、それとも半地下なのか。
観終わってからずっとその疑心に寄生されている。

——**斎藤工**(俳優/映画監督)

映画が進むにつれて、強力な力に引きずられて
見たこともない場所に
連れていかれるような気がして、
笑いながらもこわかった。でも見終われば、
そこにいくことができてよかったと心から思う。

——**角田光代**(作家)

これだけ面白い映画は
滅多にない
始まってしばらくすると脚本・監督の
ポン・ジュノ氏の笑い声が聴こえてくる
やがてそれは大笑いに変わっていく
僕には 確かにその笑い声が聴こえた
ラストシーンの後 彼に優しく肩を叩かれた

——**久米宏**

映画は「鑑賞する」ものだと思っていた。うかつだった。
「鑑賞」から「体感」となり、
とてつもないものが「寄生」してしまった。
ポン・ジュノが降らせる豪雨は、僕の中に降り続ける。
これから、どう生きていこうか。

——**満島真之介**(俳優)

予想のつかない、圧倒的な展開だ!

——**アレハンドロ・G・イニャリトゥ**
(映画監督/『レヴェナント: 蘇えりし者』)

決して、ハリウッドに"パラサイト"されない鬼才ポン・ジュノが、
映画という現実と虚構の狭間にある"半地下"視点から描く、
ユーモアと狂気たっぷりの皮肉を込めた
最高傑作!
格差社会の闇に、スポットライトを当てる事で、
家族という"共生"のメカニズムを浮かび上がらせる。
本作は"寄生"と"共生"を解く、
普遍のテーマを扱った哲学級娯楽映画だ。

——**小島秀夫**(ゲームクリエイター)

常に最新が最高のポン・ジュノ監督。
本当に頭が下がる思いです。
嘘っぽいコメントだって? 自分の脈に誓って本当です。

——**ハマ・オカモト**(OKAMOTO'S)

観客は映画上映時間にパラサイトされるだけではなく、
今後、映画史レベルでパラサイトされるだろう
歴史的な大傑作!

——**水道橋博士**(お笑い芸人)

映像、音、セリフの、**本当にひとつ残らずすべてが、**
この映画の凄みに貢献している。
クスッとしたり、ゲラゲラ笑ったりしながら、すごくこわい。
寄生する家族とされる家族、
いちばんこわいのはこの中の誰だろう、とずっと考えていた。

——**井上荒野**(小説家)

凄い、久々にガツンときた!
自分の加齢臭(体臭)が気になりました!

——**高田純次**

参った。そして唸った。
カンヌ映画祭パルムドールという「変態性」と、
老若男女誰にでも分かりやすい「大衆性」を
兼ね備えた奇跡的な一本。

——**駒井尚文**(映画.com 編集長)

(順不同・敬称略)

そのほか絶賛コメントは
『パラサイト 半地下の家族』公式サイト へ